



**DOON UNIVERSITY, DEHRADUN**  
**End Semester Examination, 3<sup>rd</sup> Semester, 2016**

**School of Languages**  
**M.A. Integrated- Japanese**  
**Course: SLJ-204 Translation**

*Time Allowed: 3 Hours*

*Maximum Marks: 50*

*Note: Attempt All Questions.*

**Translate the following passages.**

**(Marks: 8)**

1. 敬語は、文字どおりだったら、人を敬う言葉ということになる。確かにそのとおりなのだが、われわれは日常、それほど人を敬って過ごしてはいない。いや、われわれはむしろ、人はお互いに平等だという考え方が強い。小、中学校でも、この平等という点に主眼を置いて教えているはずだが、この世に生きるわれわれがみな平等だとは言えないだろう。会社の社長は地位も高く、金持ちで、それに自分よりだいぶ年上だ。父母は自分を育ててくれた人で、親子という強いきずなで結ばれ、もちろん年上だ。学校の先輩にも頭が上がらない。社長と社員、親と子、先輩と後輩、これらの関係は平等とは言えないようだ。たとえ自分のほうが地位が上だとしても、やはり尊敬すべき人がいるだろう。

主眼            main focus

**(Marks: 8)**

2. 日本では昔から、引っ越しをした時、近所の家はあいさつに行く習慣があります。「これから色々お世話になります。どうぞよろしくお願いします。」という意味です。アパートやマンションでは、自分の部屋の隣に住んでいる人や、上の部屋と下の部屋に住んでいる人などにあいさつをします。引っ越しをしたら、すぐにあいさつに行きましょう。あいさつに行く時は小さな品物を持っていくことが多いです。例えば、タオルやせっけん、おかしなどです。しかし、大事なのはあいさつをすることですから、どんな物を持っていくかあまり心配しなくてもいいです。あいさつに行ったけれども、留守だった時は、あいさつの言葉を書いた手紙などを玄関のポストに入れておくのがいいです。最近では、「引っ越しのあいさつ」をしない人も多くなっています。特に、一人で住む時は、あいさつをしない人がたくさんいます。しかし、私は「引っ越しのあいさつ」はやはりいい習慣だと思います。

**(Marks: 8)**

3. 日本に来て初めの日曜日にパーカーさんは田中先生のお宅に挨拶に行きました。田中先生はこれから1年間いろいろパーカーさんのお世話をして下さる先生です。ふつう日本では人の家を訪ねる時おみやげを持って行くと習ったので、パーカーさんはデパートでケーキを買って、地下鉄で先生のお宅へ行きました。奥さんが出て来て、応接間へ案内して下さいました。お茶が出されて5分ぐらいあとで先生が入っていらっしやいました。「ああ、パーカーさん、よくいらっしやいました。

遅くなってすみません。電話をかけていたものですから。」と先生がおっしゃいました。パーカーさんは、「先生、これから1年間いろいろお世話になります。どうぞよろしく願います」と挨拶をして、「これ、つまらないものですが、どうぞ」と言って先生にデパートで買ったケーキの箱を渡しました。先生は、「これは、どうもありがとうございます」と言ってケーキの箱を自分の横に置いてしまいました。先生がすぐケーキの箱を開けてみるだろうと思っていたパーカーさんはびっくりしました。どうして先生はケーキの箱を開けなかったのでしょうか。

(Marks: 8)

4. 海外旅行をする時の一般的な方法には、ガイドと一緒に「パック旅行」があるが、フリーツアーというものもある。パック旅行は、目的地までの往復の交通や宿泊、観光などがパッケージになっているので、その名がある。すべてが決められているので、大変便利だが、団体行動をしなければならない。もっとゆっくり見たいなと思う場所でも決められたスケジュールにしばられる。その点、フリーツアーは往復の交通手段と宿泊先が決められているだけで、それ以外は自由＝フリーだ。目的地での行動を自由に決めて、移動に必要な鉄道やバスなどの切符も一緒に申し込むことができる。ただ、フリーツアーでも注意しなければならない点がある。一度ツアー料金を払ってしまったら、往復の飛行機やホテルなどは変えられないし、キャンセルする場合は出発日の三週間も前からキャンセル料がとられてしまう。自分なりの計画をきちんと立てて、自分の旅行を楽しもう。

往復	round trip
パック旅行	package tour
宿泊先	lodging place

(Marks: 7)

5. 夏になると、日本の町や村で「おぼん」の行事が見られます。人々は、おぼんになると、亡くなった家族や先祖がうちへ帰ってくると考えています。このおぼんの間、人々は食べ物などを用意して、先祖を打ちにむかえるのです。おぼんの日、家の中にたなを作ってその上に花やお菓子や野菜をのせます。家の前を明るくします。これを「むかえび」と言います。家の前が明るいと、どこにあるか、よく分かって、先祖がまっすぐ帰ってこられるのです。家族が集まって、亡くなった人たちのことを思い出しながらいろいろな話をします。広場や学校の庭などに人々が集まって、夜遅くまでにぎやかに「盆踊り」をします。

先祖	ancestors
----	-----------

(Marks: 5)

6. 日本の言語は日本語だと思っている日本人は、インドの言葉は「インド語」だと思っている。しかし、そんな言葉はどこにもない。インド政府の中には、最も多くの州で話されるヒンディー語を普及させたいという考えも根強いが、まず、州ごとに言語が違っているとよい。というより、州の境界自体が、言語によって決められている。

(Marks: 6)

7. In 2002, the Japanese spent nearly 500 billion yen on comic books. Nearly two billion volumes of comics and comic magazines were published, comprising just shy of 40% of the publishing market. Take a look around Japan, and you will see that this country is saturated with manga. Train station kiosks and bookstore shelves are piled high with comics and comic magazines. There are even coffee shops just for reading manga. In trains, even adults can be seen completely engrossed in comics.